精神障害（精神疾患）

精神障害とは

精神障害とは脳に何らかの器質的な変化や機能的障害がおこり、様々な精神症状や身体症状、行動の変化が表れる病気です。がん・脳卒中・心臓病・糖尿病と並んで罹患者数が多く、厚生労働省が重点的に対策に取り組んでいる5大疾病に認定されています。環境の変化や対人関係のストレス、生活の乱れなど、複合的な要因がきっかけとなり大学生の年代に発症しやすい病気もあります。外からは症状が見えにくく、周囲が異変を感じても本人に病識がなく受診を拒むこともあります。また、身体障害や発達障害等を背景に症状が出ることもあります。同じ病気でも症状の表れ方や薬の効き方等が異なることから、個別の状況に応じた理解や支援が求められます。

主な病名と表れやすい症状

うつ病	憂鬱な気分　無気力　イライラ　食欲低下　意欲低下　死にたくなる　睡眠の問題　等
双極性障害	過活動　攻撃的になる　散財　色々と手を出すのにやり遂げられない ハイテンションになる躁状態の期間と、無気力で活動性が低下するうつ状態の期間を繰り返す　等
統合失調症	陽性症状（幻覚や妄想等）や、陰性症状（感情表現の減少や意欲が低下する）　等
強迫性障害	自分でも意味がないとわかっていても繰り返してしまう　戸締まりや火の元などの確認行為　手洗い等の洗浄行為 ラッキーナンバーへのこだわり　等
社交不安障害	ゼミ発表等、特定の注目をあびる場面に対して強い不安や恐怖があり参加できない　等
不安障害	死んでしまうのではないかと思うほどの激しい恐怖感におそわれ、動機、発汗、息苦しさ等の症状が出る エレベーターや特急電車等、逃げられない状況を避けるようになり外出や社会生活に支障が出る　等
選択性緘黙	家庭等では話せているのに、学校等特定の場面では話せなくなる　等
不眠、過眠、むずむず脚症候群等の睡眠に関する障害	日中の眠気や疲労感　集中力低下　等

困難なこと

精神障害のある人の困難さ

精神障害は病状の悪化による欠席や休学等で周囲が気づくこともありますが、見た目ではわかりにくい障害です。治療経過や環境要因によっても困難さの現れ方が異なるため、個別性が高いことも特徴です。

また、障害に起因するトラブルが起こっていたとしても、本人や周囲が個人の努力不足等と受け止めてしまうケースもあるため、“困っている人”として認識されないことがあります。

困難さの一例

疲れやすい　頭がうまく働かない　朝起きられない　体調が整わない　人間関係でトラブルになる　人づきあいが負担になる
しんどさを周囲に理解してもらいにくい　病状が悪化すると長期欠席や休学を余儀なくされる
症状とつきあいながら修学する必要がある　アルバイトができず経済的に困窮する　就活など社会移行に悩む　等

精神障害のある人への支援

カウンセリングやかかりつけ医との相談と併せてDRCを利用している学生も少なくありません。対人関係やタスクの重複といったストレスや、気候の変動等、様々な要因からの影響を受けて病状に変化が生じやすく、支援の内容や程度が異なります。そのため、対話を重ねて個別具体的に支援や環境調整を検討します。また、修学面だけでなく日常生活面にも困難が生じやすいため、学内外の社会資源を利用して多機関で見守りをするケースもあります。

困難さと支援の例

修学上の困難さ	希望する支援や配慮
病状について理解してもらえるか不安がある	→ 担当教員への事前相談 等
病状による遅刻や欠席、試験期間に病状が悪化する場合がある	→ 情報保障や評価方法に関する事前相談 等
病状安定と修学のバランスが難しい	→ 履修計画や研究計画の相談・検討（休学から復学する時等） 等
病状により学び方に工夫が必要	→ 講義内容の録音・録画や板書撮影の許可 等
パニック時や疲労時に対処が必要	→ 離席しやすい場所への座席配置・静養室の利用 等
社会移行に不安がある	→ 卒業研究と進路検討の時期等の相談、就職活動に関する情報提供 等

高次脳機能障害

交通事故や運動中の事故による頭のケガや、脳梗塞や脳腫瘍の治療等により脳が損傷を受けたことによって認知機能に後遺症が残った状態をさします。主な機能障害として、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害、その他の障害（失語症・失行症・失認症・半側空間無視等）があります。以下、修学上の困難さや考えられる配慮等について記載します。

修学上の困難さ	希望する支援や配慮
口頭での指示のみだと一度で全てを覚えきれない	→ 実験手順、試験等の評価に関する情報の視覚化 等
複数のグループが同時にディスカッションする場面では、周囲の音に気を取られて、話題に集中できない	→ ディスカッションの参加方法の事前相談（支援機器の使用、話題の要点の確認方法等） 等
レポート課題にうまく取り組めない	→ 担当教員との個別相談（テーマ設定や作業工程等） 等
疲れやすく、イライラして人とトラブルになりやすい	→ 疲労時の離席許可、静養室の利用、周囲（ゼミ生等）への症状の事前説明 等
左側（右側）が見えない	→ 座席配置（教室の左側/右側）、実験やスポーツ実習科目等の参加方法の事前相談 等